

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の文書の中に、「家庭的な環境と地域住民との交流の元で、ご利用者が自分らしく生活することができるように支援します」と掲げている。		理念を全体で共有していく為にホールや事務所等に、掲示している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に職員の認識を深め、全職員が集まる会議で再確認している。		各階のホールや事務所に掲示している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の方にも理解して頂けるように、写真やグループホーム内の様子を見て頂きながら話をしている。		地域の行事に積極的に参加する事だけではなくグループホーム内の行事にも地域の方に参加して頂けるよう呼びかけている。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職場までの通勤の往復時等、積極的に挨拶を行い、行事などへの呼びかけをおこなっている。		料理教室で作ったおやつ等を近所の方にも持って行ったり、近所の家でできたみかんやパセリ・シソの葉など持って来て頂いている。今後も継続していきたい。GHや母体である、特別養護老人ホームでのイベント等の声掛け行っている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に積極的に参加し地元の人々との交流に努めている。		今後も、地域行事の夏祭り・敬老会・運動会・文化祭など積極的に参加し交流に努めていく。

福岡県 グループホーム 第二こすもす

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員と入居者で散歩に出かけた際、美化運動であるゴミを拾いを行っている。		地域の方に役立てるような事を探して取り組んでいきたい。認知症デイの運営にも取り組んでいきたい。
の方				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を1年に1回行い、自己啓発向上に努めている。		評価後はグループホーム会議で改善に向けての話し合いを行い今後役立てていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、運営推進会議に行政や地域の方、入居者家族に参加して頂き、当ホームの現状を包み隠さず公表し、困難事例などの検討を行いサービスの向上に活かしている。		参加者から手作り木製パズルを頂いたり、ボランティアの申し出があった。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヵ月に1回、市町村から依頼された介護相談員にグループホームの雰囲気や現状を見て頂き、必要時は相談し助言を頂いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の事情を職員全体が把握し擁護している。グループホームの広報紙にも取り入れ制度の紹介等を行った。		まだ該当する入居者・家族はいなかったが、情報として玄関先にパンフレットを置いている。今後、必要な方がおられたら伝えていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束等の内容を勉強会で取り上げ職員間で理解を深めている。		どうい事が虐待や身体拘束にあたるのかグループホーム会議等で確認し合い取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約時、契約内容に沿って説明しご家族の状況なども確認している。</p>		<p>不安な点等は面会時に声掛け何か困った事はないか職員が積極的に声掛けし話易い雰囲気を作っていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入浴時、ゆったりした気分の時に利用者の話を聞き、どのような意見も真摯に受け止め改善の方向に持っていくように努めている。また、苦情受け付け窓口、第三者委員を契約者へ提示している。口頭による説明もおこなっている。</p>		<p>ご利用者が職員に、気軽に何でも言える雰囲気作りに努めたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、こすもす便りを郵送し、利用者の暮らしぶりや3ヵ月毎には金銭管理をお知らせしている。又、利用者に変化があった時等必要に応じ電話連絡している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族面会時は何か何か不満や要望がないか積極的に尋ねたり玄関に匿名の連絡箱を設けて意見を頂けるように準備している。真摯に受け止め、サービス向上に繋げるよう努めている。</p>		<p>面会に来られない、ご家族もおられるのでアンケート用紙を郵送し、意見等をお聞きする。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の行事担当を決めており職員のアイデアや意見を聞きながら行事を行っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務の調整は上司が行っている。</p>		

福岡県 グループホーム 第二こすもす

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>極力、異動・離職を抑え、異動の際は利用者へのダメージを防ぐ為、グループホーム介護に適した人材を選出している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>経営母体である社会福祉法人が職員を採用しており、性別・年齢に制限なく障害者も受け入れている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>GH会議等職員皆が集まる時、勉強会を行い確認を行っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回のグループホーム会議後に勉強会を行っている。</p>		<p>新聞に取り上げられた問題や必要な情報があれば随時取り上げていきたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県高齢者グループホーム協議会に入会し他グループホームのメンバーとの相互交流、情報共有の促進、研修会等に参加しサービスや質の向上に努めている。</p>		<p>今後もいろいろな活動に参加していきたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のボーリング大会やスポーツ大会や花見等でストレス解消を図っている。</p>		<p>日々の会話の中から職員の状態がわかる様コミュニケーションを取りそのような関係づくりに努めたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員全員が一定期間での目標を立て、管理者と本人が達成度を評価し向上に繋げていくように支援している。		資格取得を推進している。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時等、利用者との関わりを多く持ち、話を傾聴する機会を作っている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の要望や意見等、極力、受け入れるように努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を良く聞きグループホーム対応ではない方の家族の場合は他事業所や関係者の紹介をしている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の相談があったら、まず、本人や家族に見学に来て頂き現場の雰囲気を見て頂いている。本人を理解する事を常時念頭に置き、無理なサービスにならないよう、職員・家族と相談しながら行っている。		入所前に行事に体験参加して頂きグループホームでの生活を納得した上で入所されるよう努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者で散歩に出かけた際、美化運動であるゴミを拾いを行っている。利用者という関係にありながらも気持ちの上では人生の先輩として尊厳の気持ちで接している。食事は利用者と一緒に作り、一緒のメニューを食べ、昔からの馴染みの料理は教えて頂く。		得意な裁縫等は、ご利用者から職員が教えて頂いたり、雑巾を縫っていただいたりと教えていただいている事がある。今後も、ご利用者の持つある力を引き出すお手伝いをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えている関係を築いている	家族の面会時や、電話連絡の時等に本人の状況を説明し、良い事であれば家族と一緒に喜び、体調悪かったりする時は一緒に心配したりしている。また、ほぼ毎月、ご家族や地域住民との「ふれあい交流会」を実施し、一緒にイベントに参加される機会を設けている。		かかりつけ医の受診や本人馴染みの美容室に連れて行ってもらったり、ご家族と外出や外食をされたり、本人の好きな物を差し入れしたりと家族の協力も得ている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症介護で家庭内がぎくしゃくしていた家族も入所され距離を置くことによりお互いに優しくなれ関係が良くなった家族等がありお互いの気持ちを考慮し支援している。		入居者と家族が離れた事で今まで大変だった事から解放され客観的に見られるようになり関係も良くなる事が多い。今後も両者のパイプ役となって良好な関係を保っていきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からのかかりつけの病院受診や美容室等、家族と出かける事を継続している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中は居室にいるよりホールで皆さんと過ごす事が多く、気の合う入居者同士や世話好きな入居者などの性格を把握し席を配慮している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	身体的レベル低下にて法人が持つ特養に入所されたりする事例が数件あり、職員の異動等で本人の顔なじみの職員がいたりする。一旦、自宅復帰し法人が運営する小規模多機能を利用された事例もあった。		退所された方や家族からの問い合わせや相談があれば快く受け入れていきたい。
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時、本人の希望・意向を確認しプランに反映している。また、意思伝達が困難な方の場合、本人本位に検討し、ご家族からの情報等からも、ご利用者の思いや意向を掴めるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を十分に聞きこれからのGHでの生活の中で生かせるよう努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りや記録等に入居者の状況を記入し職員全体が情報を把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人に職員担当者を決め、3か月に1回のケアカンファレンスを行い、家族、本人交えてそれぞれの意見を取り入れた介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状況が変わった場合は新たにケアカンファレンスを行い現状に応じたケアプランを作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の暮らしの様子や本人の言葉、排泄状況、食事、水分摂取量のチェックなど身体的状況を記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・空床を利用したショートステイの受け入れを行っている。 ・家族が本人の居室に宿泊したいと要望あれば支援を行う。		本人の誕生日には家族にも参加して頂き、食事を一緒に楽しんで頂けるよう努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアは随時受け入れ、消防署は防火訓練・救命方法など指導に来て頂いている。		今後も必要性に応じてこちらから積極的に声掛けしていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	まだ実施していない。		今後、機会があれば取り組んでいきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	虐待などの理由で入所が必要な利用者等、民生委員や包括支援センターと連絡し合いながら受け入れ支援の方向に持っていつている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医を受診され随時、医療機関との連絡を行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要時は専門医の受診を受け分からない事を聞いたり相談したりしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が1名おり日常の健康管理を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者入院中も度々、お見舞いや洗濯物などの交換に行き、利用者の状態を見たり病院関係者や家族との情報交換をし早期退院できるよう連携に努めている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>まだ実施していない。ターミナルの事例はないがマニュアルを作り家族にも説明しており準備を行っている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>マニュアルを作り準備はしているがまだ対象者はいない。</p>		<p>本人、家族の希望があれば取り組んでいきたい。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>職員がその方に関わりを多く持ち、他利用者との交流など、入りやすい雰囲気を作り移動時の不安軽減に努めている。</p>		<p>家族や本人との話し合いを重ね、ケア関係者との情報交換を行い、住み替えによるダメージを防いでいきたい。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録は必要時以外は見えないところに保管している。</p>		<p>職員のなにげない会話を聞き、気にされる事があるので注意を促していく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者の自己決定を尊重し希望、要望、苦情等があればすぐに対応している。</p>		<p>バスバイクや料理メニュー等、利用者の希望を聞き取り入れている。今後も日常の会話から気持ちをくみ取っていきたい。</p>
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>歌を唄う、貼り絵、昼寝をする等、その方なりの1日の過ごし方を尊重し支援している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>利用者の事情を職員全体が把握し擁護している。グループホームの広報紙にも取り入れ制度の紹介等を行った。身だしなみは職員がさりげなくアドバイスしている。理容、美容は本人の希望があれば希望の店に行けるよう支援している。</p>		
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>材料の下ごしらえや、小鉢へのつぎ分けを手伝って頂いたり味見をして頂きアドバイスをもらって調理している。献立に利用者の希望を取り入れている。</p>		
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個人的に希望されるふりかけやパン、飴、ヤクルト等を利用者と一緒に買い物に行ったりしている。</p>		
58	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄のチェック表を使い時間毎や希望時、トイレ誘導行っている。</p>		<p>排泄パターンや習慣を把握したら、全職員で把握できるように申し送りに記入する等して共有している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回の入浴をして頂いているが、希望される時は可能な限り入浴して頂いている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて昼食後等休んで頂いたりしている。		昼夜逆転を引き起こさないよう、その方なりの適度な休息をして頂けるよう支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、歌、園芸、手芸等、個々に応じた役割、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。		茶道が得意であられるご利用者には、茶話会や新規ご入所者との親睦会などで、お抹茶を点てて頂いている。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングに同行し、職員見守りにて買い物、支払をして頂いている。		トラブルを防ぐ為に、ご本人とご家族に了解を得てから所持金を確認させて頂いている。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により、散歩、買い物、ドライブに出かけている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月、バスハイクを計画し皆さんで外出楽しまれている。家族にも声掛けしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話の取り次ぎを行っている。遠方の家族から手紙もきている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が来所された時は、気持ち良く迎え、利用者と一緒にお茶やおやつを楽しんで頂いている。誕生会の時は家族をお誘いし一緒に会食される機会を設けている。		家族来所時には何か気付かれた点等を言って頂けるよう積極的に声掛けしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH会議等職員皆が集まる時、勉強会を行い確認を行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関には鍵をかけず、出入り自由になっている。玄関外の花等見に出られている。		2階の出入り口は、出て直ぐ階段がある為、施錠をしている。ご家族には事前に説明している。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者に応じた距離を保ちながら、安全確認を行っている。夜間帯は30分毎の巡回を行っている。		予想できる事柄に対しては対策を立て事故がない様配慮していきたい。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共同生活空間となる所では目の届かない所に危険物は収納している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回の防火訓練を行っている。危険だと感じた時はヒヤリハットを提出し、今後の対応を検討し事故防止に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応、心肺蘇生法などの勉強会を行っている。		事故発生時、直ぐ動けるよう、訓練を繰り返し行っていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、火災時の避難訓練を消防署の協力を得て行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ベッドより転落やずる落ちされたご利用者には、ご家族に説明しベッドの高さを変える(マットレスは除去)・布団に臥床して頂く等の対策を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタル、排泄状態等のチェックを行い、発熱、血圧上昇等、いつもと数値が違う場合は赤色ペンで書き、再計測している。又、顔色、食欲等の体調のサインも把握している。		血圧の変動があらわれる方は、朝と夕に測定する等の配慮を行っている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が確認できるよう薬の説明書をファイルしている。		GH会議でも、勉強会として取り上げる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ水分を摂って頂いたり、食事に繊維を取り入れる等の工夫をしている。看護師が毎朝排便の有無を確認し必要時には処置を行っている。		毎日の水分補給事に寒天を提供したり、朝のラジオ体操時、お腹のマッサージ等を続けていきたい。
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔を保てるようにしている。義歯は本人に洗ってもらった物を職員が確認している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態で提供し食事摂取量、水分摂取量をチェックし摂取量が満たされるよう支援している。		どうしても水分を飲んで頂けない方がおられる為、好みの飲み物で対応して出来るだけ飲んで頂けるよう努めたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年時期になると、利用者、職員全員、インフルエンザ予防接種を行っている。法人で行っている事故・感染対策委員会に参加し予防や対応について周知徹底を図っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生点検表を作り、毎日、チェックし清潔保持・安全な食材の確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の手作りプランターに花を飾り、柔らかい雰囲気が作れるよう努めている。		近所の方が気軽にお茶を飲みに来て頂けるような雰囲気を工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等の共同スペースには、季節の花や行事の飾り付けをしている。光はスクリーンで調整している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、テーブルがあり廊下には面会時に使用して頂ける様にテーブルを配置している。		畳上が椅子やテーブル等なく淋しい為、今後検討し工夫していきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、本人の馴染みの物、使い慣れた品物を居室に持参して頂くよう家族に相談している。		家族来所時等、本人の馴染みの物があったら持ってきていただけるよう声掛けていきたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	汚染されたオムツやパットは新聞紙にビニールに包み蓋付きのポリバケツに入れ適宜、換気扇を回したり窓をあけたりしている。各居室にあるエアコンは個別に調整しホールのエアコンもこまめに調整している。		利用者の状態見ながら室温に配慮していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置して利用者のできられる事はして頂いている。		依存的な利用者には自発的に日常的なADL訓練をして頂けるよう根気よく働きかけていきたい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは大きな文字で表示し、各居室のドア横にはそれぞれの写真を表示している。良く居室を間違われる方の居室のドアには大きく名前を貼って間違えられない様配慮している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に花や野菜を植えたプランターを置き、水やりや収穫など楽しめるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ・地域密着の推進、地域の方にGHIに来て頂き、施設や入居者の状況等を知って頂き地域の理解者を増やす事に努めています。
- ・入居者の健康状態を維持できるよう美味しくバランスの取れた食事作りに頑張っています。
- ・ご入居者が支援される立場にばかりにならない様におひとりお一人のニーズや力に応じた介護ができる様に努めている。